

令和5年度

社会福祉法人 宝塚市社会福祉協議会

概 要



宝塚市社会福祉協議会
マスコットキャラクター
スマレン

1. 宝塚市について

宝塚市は、東西12.8km南北21.1km面積101.89km²を有しており、阪神間の中央背後部にあつて、東は猪名川町、川西市、南は伊丹市、尼崎市、西宮市、西は神戸市、三田市に接し、大阪、神戸から20km圏内に位置しています。

六甲・長尾山系や武庫川に象徴される美しい景観、北部地域の豊かな自然環境、宝塚歌劇に代表される芸術・文化など、様々な魅力と個性のあるまちです。



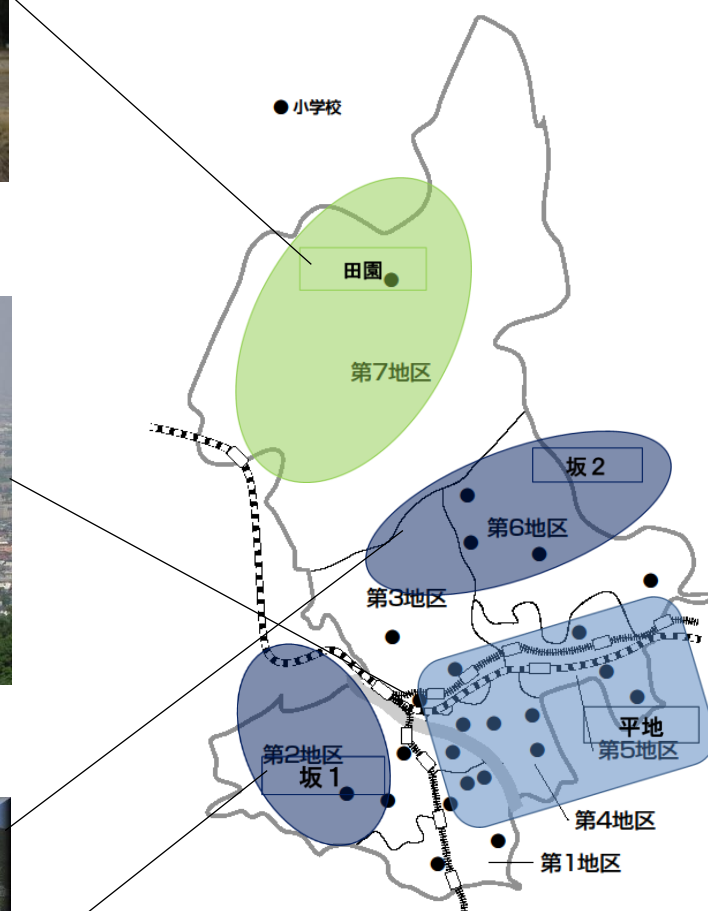
風光明媚な田園地帯




宝塚歌劇場から武庫川をはさんだ風景



山手を拓いた住宅地



○ 人口 222,933 人
○ 世帯数 96,514 世帯
※令和5年4月1日時点の住民基本台帳に基づく推定数

「宝塚市ホームページ 統計」▶ 

2. まちづくり協議会について

宝塚市には、概ね小学校区ごとに20のまちづくり協議会があります。地域の現状や課題、ニーズを踏まえ、将来像を描き共有しながら、まちづくり協議会ごとに基本目標や具体的な取り組み等を取りまとめたまちづくり計画に基づいて、活動を進めています。

宝塚市や宝塚市社会福祉協議会は、宝塚市総合計画や宝塚市地域福祉推進計画を推進し、まちづくり計画をともにすすめています。



まちづくり協議会の名称 「」内は愛称・略称	ブロック 番号
(1)仁川まちづくり協議会	1
(2)宝塚市高司小学校区まちづくり協議会	
(3)宝塚市良元地区まちづくり協議会 「良元コミュニティ」	
(4)宝塚市光明地域まちづくり協議会 「光明地域コミュニティ」	
(5)宝塚市未成小学校地域まちづくり協議会 「コミュニティすえなり」	2
(6)宝塚市西山まちづくり協議会 「コミュニティ西山」	
(7)まちづくり協議会コミュニティ末広 「コミュニティ末広」	
(8)宝塚第一小学校区まちづくり協議会	3
(9)逆瀬台小学校区まちづくり協議会 「ゆずり葉コミュニティ」	
(10)宝塚すみれが丘小学校区まちづくり協議会 「コミュニティすみれ」	
(11)宝塚小学校区まちづくり協議会 「宝小コミュニティ」	4
(12)売布小学校区まちづくり協議会 「コミュニティ売布」	
(13)小浜小学校区まちづくり協議会	
(14)宝塚市美座地域まちづくり協議会 「コミュニティ美座」	5
(15)安倉地区まちづくり協議会 「コミュニティ安倉」	
(16)宝塚市長尾地区まちづくり協議会 「ふれあいコミュニティ長尾」	6
(17)中山台コミュニティ	
(18)宝塚市山本山手地区まちづくり協議会 「山本山手コミュニティ」	
(19)宝塚市長尾台小学校区まちづくり協議会 「コミュニティひばり」	7
(20)宝塚市西谷地区まちづくり協議会 「西谷コミュニティ」	

3. 宝塚市社会福祉協議会について

社会福祉協議会は、社会福祉法で定められた民間の団体（社会福祉法人）です。「地域福祉の推進を図ることを目的とする団体」として、すべての都道府県・市区町村に設置されています。

宝塚社協は、行政からの委託や補助事業も手がけていますが、介護保険や障害福祉サービスの事業収入が全体収入の約 2/3 を占めています。また、その事業収入の一部は地域福祉事業に還元しています。福祉制度にとらわれない柔軟な取り組みを、様々な人や団体とともにおこなえることが社協の強みです。

4. 第7次地域福祉推進計画について

基本理念 「未来へつなぐ ともに自分らしく輝けるまち」

令和4年度から、地域住民や当事者団体、民間事業者、行政などの委員で策定した「第7次地域福祉推進計画（5か年計画）」を推進しています。

基本理念には、未来に向けて、子どもたちをはじめ、世代を超えた人と人や、人と地域とのつながり、お互いに多様性を認めあい、自分らしく活躍できるまちづくりをすすめることの意味が込められています。

その実現にむけて4つの基本目標と3つの重点的な取り組みを掲げ、具体的な活動や事業を展開していきます。



4つの基本目標

1. お互いさまのまちづくり
2. 多様性を認め合えるまちづくり
3. 自分らしい暮らしを支える仕組みづくり
4. 地域福祉の基盤づくりとマネジメント

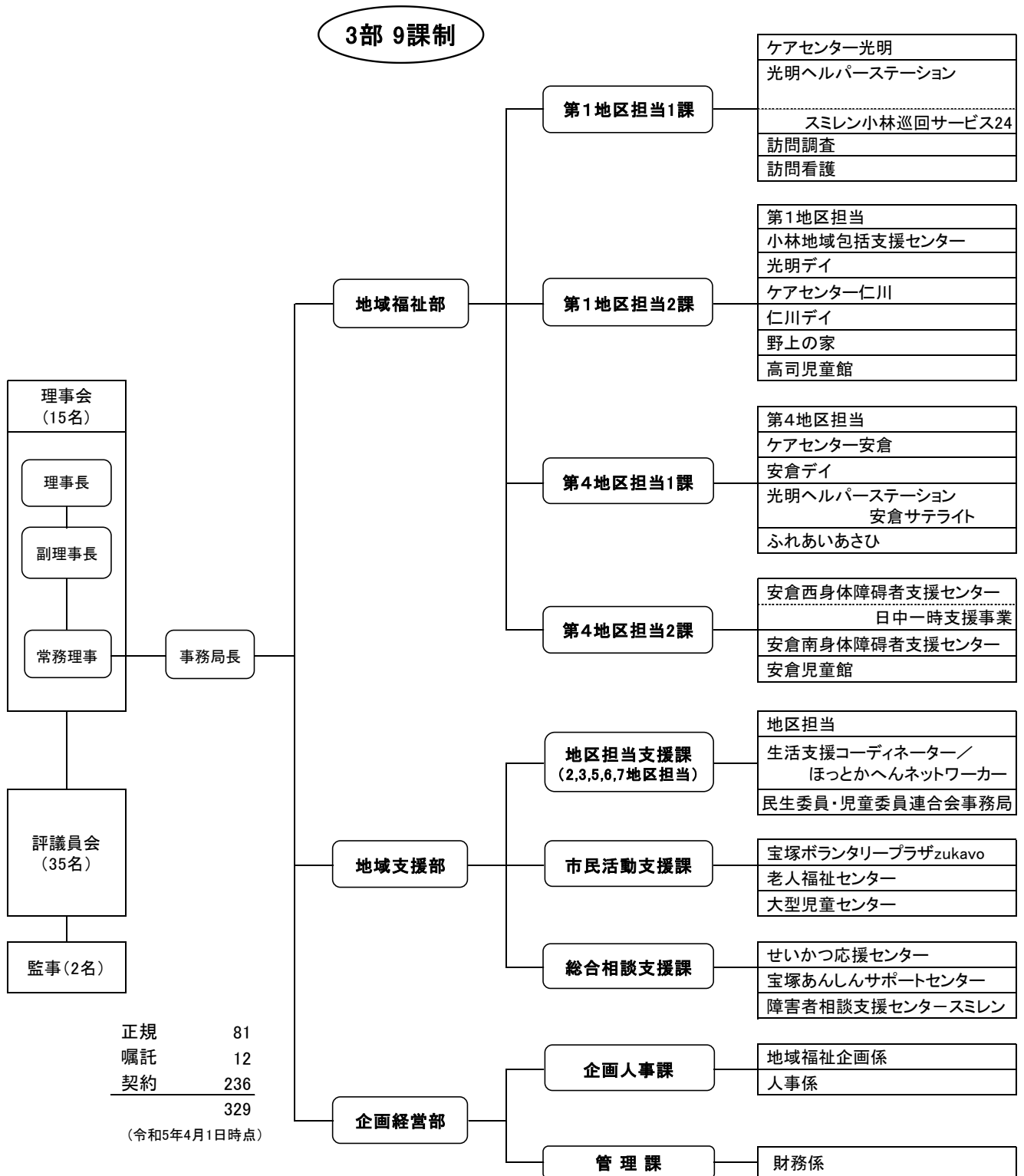
3つの重点的な取り組み

1. 協働による地域ごとのまちづくり
2. 自分らしく活躍できるまちづくり
3. 子ども・親支援の充実

詳しくは、[宝塚市社会福祉協議会 第7次地域福祉推進計画](#)で検索🔍



5. 令和5年度 宝塚市社会福祉協議会 組織図



6. 部署紹介

地区センター（おばやし、逆瀬川、ごてんやま、安倉、長尾、中山台、西谷）



（長尾）



（逆瀬台）



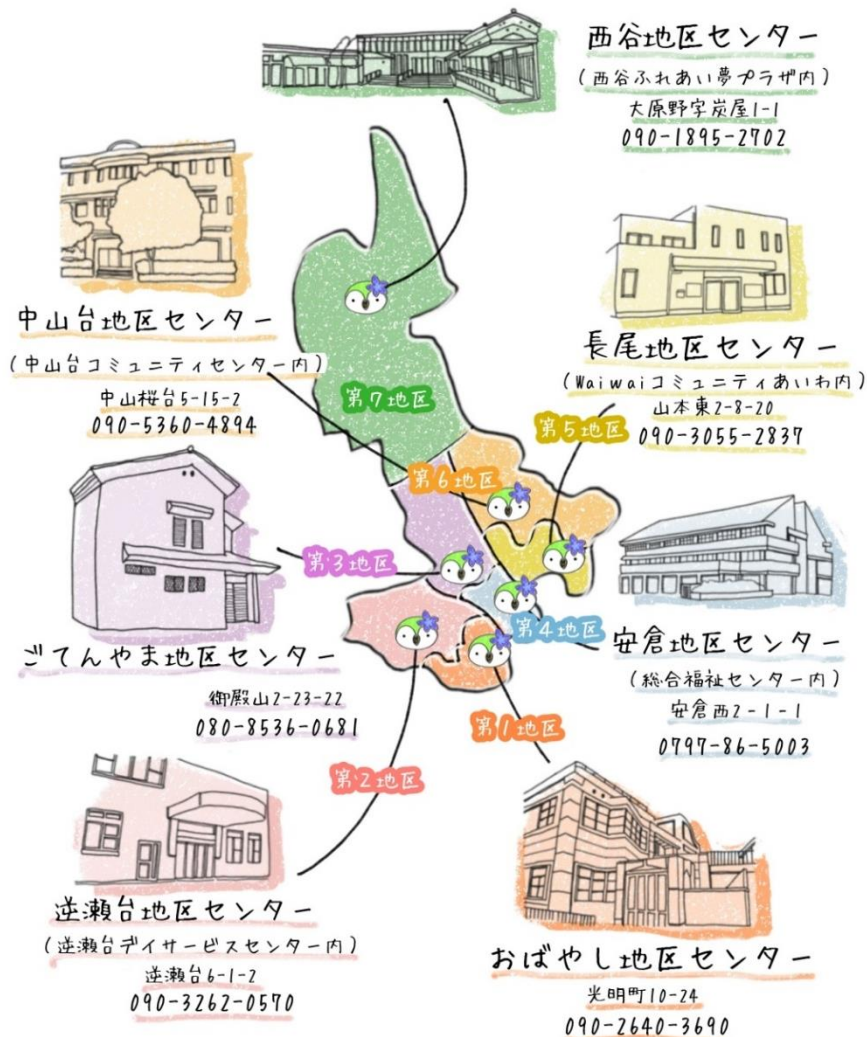
（ごてんやま）

身近な相談窓口として宝塚市内に7つの地区センターを設置し、地域活動や各種助成金等の情報を発信しています。地域住民が集い、話し合える場としても機能しています。

また、生活支援コーディネーターが、市内全域を対象に見守り・支えあい活動の生活支援体制整備を進めています。

（主な事業）

福祉コミュニティ支援事業、自治会・地域見守り支援事業、生活支援コーディネーター事業・生活困窮者支援体制強化事業（ほっとかへんネットワーク）・宝塚市民生委員・児童委員連合会事務局 ほか



イラスト提供
パピコクレ

宝塚ボランティアプラザ zukavo (旧・ボランティア活動センター)



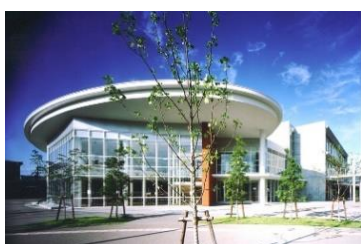
(ぶらざこむ1内)

ボランティア活動に関する情報提供、相談、つなぎ役（コーディネート）、講座や研修会、助成事業の実施のほか、ボランティア保険の窓口、当事者家族の支援をおこなっています。

(主な事業)

福祉学習の推進、ボランティア活動助成、災害ボランティアセンターの運営 ほか

フレミラ宝塚



老人福祉センターと大型児童センターの複合施設です。高齢者と児童がふれ合い、相互に交流を深めることを目的に様々な事業をしています。

(主な事業)

はつらつ教室、いきいき学舎、各種同好会の支援、子どものまちづくりプログラム（ミニたからづか）、不登校・ひきこもり支援（思春期ひろば事業）、学習支援 ほか

児童館（高司児童館、安倉児童館）



(高司)



(安倉)

地域の子どもたちが、自由に来館して、遊ぶことができる場所です。主に就学前子育て期の親子や小学生に向けた施設機能やプログラムを提供しています。地域のボランティアの協力もあり、地域とともに子どもの育みを支援しています。

(主な事業)

出前児童館、中高生タイム、学習支援 ほか

民家型デイサービス（野上の家、ふれあいあさひ）



（野上）



（ふれあいあさひ）

民家という特色を生かし、自宅での生活動作（食事作りや洗濯など）を一緒におこなうなど、本人のできることを大切にしています。

近隣の方が立ち寄り、一緒に食事や話しができるような、開かれた居場所を提供しています。

デイサービス（光明デイ、仁川デイ、安倉デイ）



（仁川）



（光明）

デイサービスの基本業務である送迎、入浴、移動や排泄、食事、機能訓練などの介助、支援だけでなく、運営についても地域住民の意見を取り入れながら、地域のつながりづくりの拠点としても機能しています。

小林地域包括支援センター



（光明デイサービス 2階）

高齢になっても住み慣れたまちで暮らし続けられるよう、生活全般や介護についての相談を受け付けています。地域向けに認知症や高齢者福祉などの学習会もおこないます。

ヘルパーステーション、訪問看護（光明ヘルパー、光明訪問看護）、
定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業（スミレン小林巡回サービス24）



介護・看護が必要になっても、誰もが住み慣れた家で暮らしていけるように、暮らしの支援をしています。

定期的な巡回や訪問をおこない、利用者の心身の状況に応じて、24時間365日必要なサービスを提供しています（定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業）。

ケアセンター（ケアセンター光明、ケアセンター仁川、ケアセンター安倉）



（安倉）



（仁川）

ケアセンター（居宅介護支援事業所）は、ケアマネジャーによる介護に関する相談窓口です。地域住民と連携し、住み慣れた地域で安心して暮らすための支援をおこないます。

障害者相談支援センタースマレン、あんしんサポートセンター



（総合福祉センター 2階）

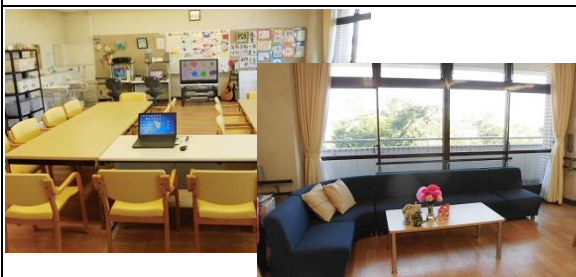
障害のある方や家族の様々な相談を受けるほか、同じような障害や境遇、体験をしたピアサポーターによる相談を実施しています。

また、福祉サービス利用の手続き、日常の金銭管理、通帳・印鑑の預かりなど、様々な自立生活を支援します。

（主な事業）

福祉制度や生活上の相談、福祉サービス利用の際のプラン作成、ピアカウンセリング、ピアサポーターの派遣、日常生活自立支援事業 など

つどいの場 トライル



（総合福祉センター 3階）

障害のある人が利用できる場所です。のんびり過ごしたい時、仲間とおしゃべりしたい時にそれぞれのペースで参加、活動できます。

食事会やスポーツ、歌などのプログラムを企画し、提供しています。

せいかつ応援センター



（宝塚市役所 1階）

生活に困りごとや不安を抱えている方の相談を受けて、今後の生活について一緒に考え、自立に向けた支援をしています。相談者が自ら家計を管理できるように、家計の立て直しに関するアドバイスもおこないます。

（主な事業）

生活困窮者自立相談支援事業、生活福祉資金貸付相談、ひきこもり支援のネットワークづくり・当事者活動の支援（スマレン's ワークいろいろ）

（スマレン's ワークいろいろによる居場所・就労体験）

身体障害者支援センター（安倉南、安倉西）



（安倉西）



（安倉南）

重度の身体障害（がい）と知的障害（がい）のある方が、自分らしい暮らしを実現するために、入浴・食事・日中活動などの生活支援をおこなう生活介護施設です。

住み慣れた地域の中で、役割や生きがいをもって暮らし続けることをお手伝いします。

企画経営部



（総合福祉センター 1階）

法人全体の組織運営、人事労務、経営財務に関する業務を総括するほか、地域福祉に関する事業を推進しています。

（主な事業）

社協会費・共同募金・日本赤十字社の募金活動、善意銀行、社協たからづか作成、ホームページ運営、ふれあいいいききサロン支援事業、ミニデイサービス支援事業、緊急通報システム、福祉電話、行事用備品の貸出、総合福祉センターの管理運営、宝塚市社会福祉法人連絡協議会・宝塚市介護保険事業者協会・宝塚市遺族会に関すること（ほか）

地域活動に関する事業実績（抜粋）

	事業指数	令和4年度	令和3年度	令和2年度
ふれあいいいききサロン支援 （うち週1回実施）	グループ数	193グループ （86グループ）	189グループ （77グループ）	173グループ （60グループ）
地域ささえあい会議	実施箇所数	155カ所	145カ所	137カ所
たからづか地域見守り隊	協力事業者数	268事業所	265事業所	256事業所
ボランティア助成事業	助成グループ数	74グループ	82グループ	74グループ

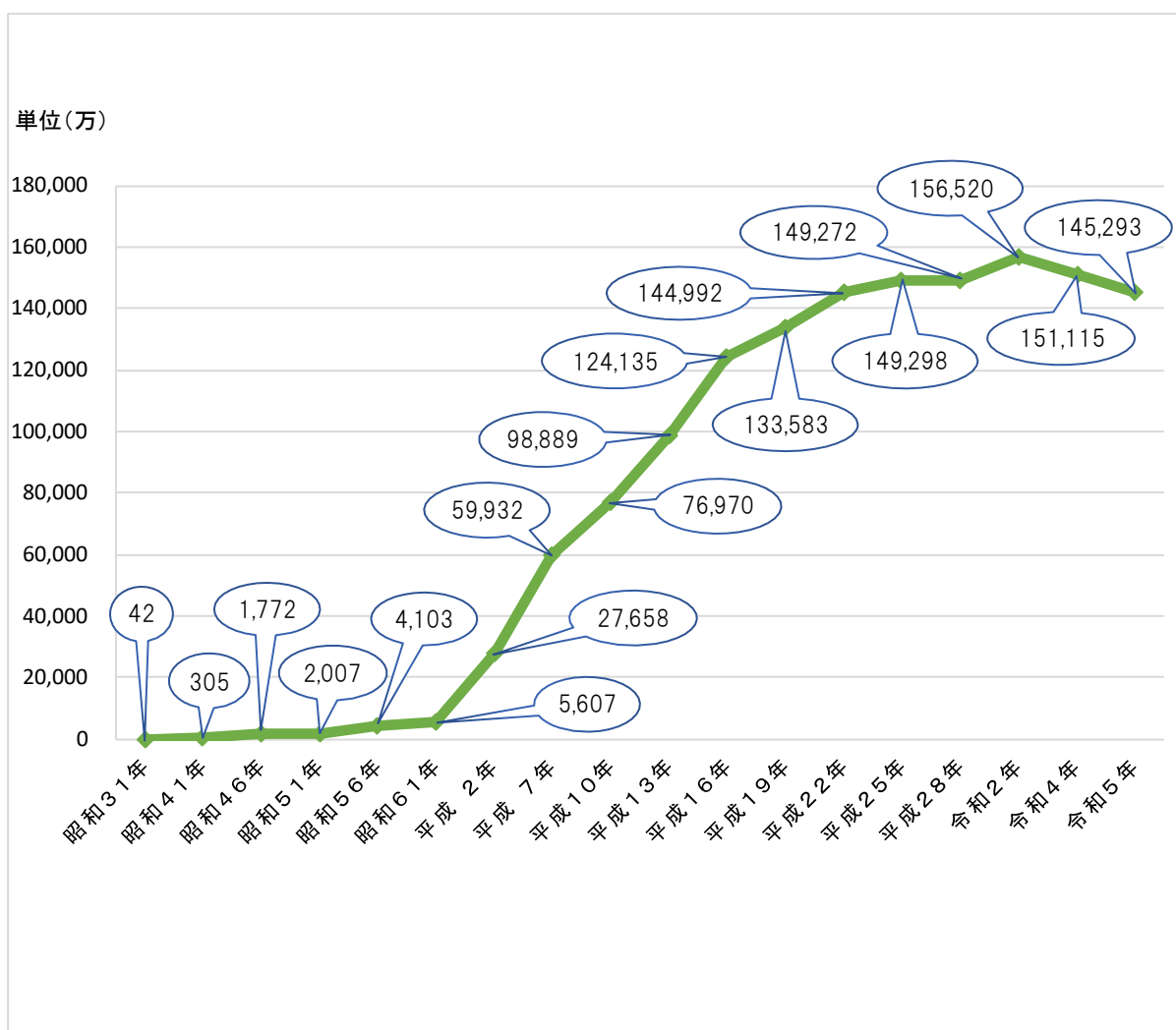
7. 予算について

令和5年度資金収支予算 14億5,293万円（前年度当初予算比5,822万円減）

収 入		
社協会費収入	1,300 万円	0.9%
寄附金収入	150 万円	0.1%
補助金収入	15,688 万円	10.8%
共同募金等配分金収入	1,457 万円	1.0%
介護福祉サービス事業収入	68,146 万円	46.9%
障害福祉サービス事業収入	28,385 万円	19.5%
委託事業受託金収入	26,933 万円	18.5%
積立資産取崩収入	2,611 万円	1.8%
その他の収入	623 万円	0.4%
収入合計	145,293 万円	100.0%

支 出		
本部運営費	7,610 万円	5.2%
福祉施設運営事業費	17,092 万円	11.8%
地域福祉推進事業費	14,727 万円	10.1%
ボランティア活動センター事業費	2,341 万円	1.6%
権利擁護支援事業費	6,203 万円	4.3%
障害福祉サービス事業費	28,355 万円	19.5%
地域包括支援センター事業費	8,183 万円	5.6%
介護福祉サービス事業費	60,625 万円	41.7%
当期資金収支差額	157 万円	0.1%
支出合計	145,293 万円	100.0%

予算規模の変遷



年度	予算額(円)	年度	予算額(円)
昭和31年	41万9,200円	平成13年	9億8,889万4,000円
昭和41年	304万5,521円	平成16年	12億4,134万6,000円
昭和46年	1,771万9,750円	平成19年	13億3,582万7,000円
昭和51年	2,006万7,674円	平成22年	14億4,991万5,000円
昭和56年	4,102万7,280円	平成25年	14億9,297万7,000円
昭和61年	5,607万2,295円	平成28年	14億9,272万0,000円
平成2年	2億7,657万7,000円	令和2年	15億6,519万7,000円
平成7年	5億9,931万9,000円	令和4年	15億1,115万0,000円
平成10年	7億6,969万8,000円	令和5年	14億5,293万0,000円

8. 宝塚市社会福祉協議会の歴史（一部抜粋）

昭和29年	7月1日	宝塚市社会福祉協議会発足 事務局：市役所内 初代会長：千楸 長蔵
昭和43年	2月28日	社会福祉法人として厚生省より認可・定款施行 理事13名 評議員40名
昭和51年	12月23日	ボランティア活動センター（現・ボランタリープラザ zukavo） オープン
昭和58年	8月	ホームヘルプサービス事業（現・光明ヘルパーステーション）開始
昭和60年	6月12日	宝塚市総合福祉センター管理を市より受託
	10月	障害デイサービスしおんの園 （現・安倉西身体障害者支援センター）オープン
平成元年	4月1日	安倉デイサービスセンターオープン
平成2年	5月	宝塚市地域福祉計画策定（宝塚市社協第1次計画）
平成5年	4月26日	光明デイサービスセンターオープン
平成7年	1月17日	阪神・淡路大震災以降、被災者支援と復興活動を開始
平成8年	6月	光明地区センター（現・おばやし地区センター）オープン
平成9年	5月	新地域福祉計画策定（宝塚市社協第2次計画）
	7月	光明在宅介護支援センター（現・小林地域包括支援センター） 運営受託、逆瀬台地区センターオープン
	8月	生活復興相談員設置（平成18年～高齢者自立支援ひろば事業に名称変更、平成30年に事業終了）
平成10年	4月1日	光明訪問看護ステーション事業開始 福祉コミュニティ支援事業開始
	10月1日	中山台地区センターオープン 障害者自立生活支援センター （現・障害者相談支援センタースマレン）運営受託
平成11年	1月	西谷地区センターオープン
	10月	地域福祉権利擁護事業（現・日常生活自立支援事業）開始 ケアセンター光明（居宅介護支援事業）オープン ソリオ地区センター（現・ごてんやま地区センター）オープン
平成12年	4月1日	介護保険事業開始 仁川デイサービスセンターオープン、高司児童館オープン ふれあいいきいきサロン支援事業開始
	7月	長尾地区センター（長尾介護予防拠点）オープン
	10月	安倉地区センターオープン
平成13年	12月	地域福祉活動計画策定（宝塚市社協第3次計画）
平成14年	2月	福祉コミュニティプラザオープン、ボランティア活動センター移転
	4月	民生委員・児童委員連合会事務局を市より移管
	6月	フレミラ宝塚オープン

	10月		安倉南身体障害者デイサービスセンター (現・安倉南身体障害者支援センター)・安倉児童館オープン
平成17年	4月1日		ケアセンター安倉(居宅介護支援事業所)オープン
	8月		小規模デイサービス(民家型通所介護事業所)鹿塩の家オープン <u>(令和5年3月31日閉所)</u>
	3月23日		地域福祉推進計画(宝塚市社協発展計画 第4次計画)策定
平成18年	5月		小規模デイサービス(民家型通所介護事業所)野上の家オープン
平成19年	12月		小規模デイサービス(民家型通所介護事業所)安倉の家オープン (平成28年3月31日閉所)
平成21年	4月		不登校・ひきこもり支援事業(思春期ひろば事業)
	6月		あんしんサポートセンター(権利擁護センター)のオープン
	11月		安全で安心な楽しいまちづくり事業開始(安心生活創造事業)
平成22年	6月		地域福祉優秀実践賞を受賞(日本地域福祉学会より)
	11月		くらしサポーター事業開始
平成23年	3月11日		東日本大震災以降、被災地への職員派遣を継続して実施
	3月28日		地域福祉推進計画策定(宝塚市社協第5次計画)
平成24年	1月		ケアセンター仁川(居宅支援事業)オープン
	3月1日		小規模デイサービス(民家型通所介護事業所)ふれあいあさひオープン
	4月1日		組織改編実施 エリアチーム制の導入
	5月25日		宝塚市高齢者・障がい者権利擁護支援センターオープン (令和3年3月31日に委託事業終了)
	10月		緊急サポート事業開始
平成26年	2月		宝塚市セーフティネット会議開催
平成27年	4月1日		せいかつ応援センターオープン(生活困窮者自立支援事業受託) 生活支援コーディネーター配置
	6月1日		すみれの花基金事業開始
平成28年	4月27日		熊本県地震共同支援ネットワークを発足し、被災地へ専門職派遣を実施
	7月18日		専門職向け地域福祉研修開始(生活支援Co事業)
平成29年	1月30日		宝塚市社会福祉法人連絡協議会(ほっとかへんネット宝塚) 発足
	4月1日		地域福祉推進計画策定(宝塚市社協第6次計画)
平成30年	7月16日		西日本豪雨災害(倉敷市真備町)へ職員派遣を実施
令和元年	12月1日		定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業 開始 くらしのパートナー事業開始(ごてんやま、長尾地区センター) 第1地区にて、地域生活支援会議を開始
令和2年	3月25日		新型コロナウイルス特例貸付(生活福祉資金)開始 <u>(令和4年9月末で終了)</u>
	8月3日		夜間休日緊急対応事業開始
	12月25日		スマレン小林介護ステーション1階オープン・介護職員初任者 研修講座開始
令和4年	4月1日		地域福祉推進計画策定(宝塚市社協第7次計画) 单身生活サポート事業開始
令和5年	4月1日		生活困窮者支援体制強化事業(ほっとかへんネットワーク) 開始